

# 卑劣な差別扇動に批判

川崎市長選 宮部氏が選挙ヘイト

## 差別禁止法 を求めて

時代の正体

川崎市長選に立候補しているレイシスト、宮部龍彦氏(46)のデマに基づく差別扇動に批判が高まっている。被差別部落出身者への差別を長年続ける偏執ぶりで知られるそのやり口は、差別されている側に問題があるかのようになじ曲げた上で、特定の地名や団体を「叩いてもよい対象」としてインターネット上にさらすという悪辣なもの。18日は在日コリアン集住地区の川崎区桜本に「皆様が期待する場所に行きます」と告知して街頭演説を行い、差別者たちの攻撃を狡猾に煽る卑劣な手口が市民の抗議を浴びた。

「利権」とおとしめる被害者攻撃を20年ほど続ける。2016年、同和地区の地名をネットで拡散させた差別事件を巡っては、被差別部落出身者約230人から裁判を起された。「学術研究の自由」「地名公表しないことが差別を助長する」などと事実を無視した道理に合わない理屈を並べ立てたが、「差別されない権利」を侵害したと認定した宮部氏敗訴の判決が最高裁で確定している。

市長選で宮部氏が執拗に攻撃しているのが桜本にある市ふれあい館。1988年、地域に根強かった主在日コリアンへの差別をなくすために市が設置した公的施設で、人権尊重と平和のための社会教育事業が行われている。

2019年にはあらゆる差別を禁じる市条例も市議会の全会一致で制定され、

市民の抗議を浴びる中、差別を煽る選挙ヘイトを配信する宮部氏(中央)

18日、桜本商店街



差別の解消と多文化共生の推進はまちづくりの中心に据えられる。宮部氏はしかし、それを偏っていると歪曲。前提事実をたがえた上で「中立化する」と言っても良いことをする体を取り、差別をなくす取り組みに難癖をつけ、ひいては差別にさらされているマイノリティーを攻撃している。

この日、桜本商店街の入り口で演説した宮部氏は、地元の小中学校に通っていた住民から自身に届いたというメールを「偏った教育」の証拠のように読み上げたが、内容が事実かどうか詳細を確かめたのかについて問うた神奈川新聞社の取材に、確認はしていない旨を説明した。宮部氏は市内各地の選挙演説で「政治的に偏向した講演が行われている」とも吹聴しているが、いつ誰がどのような講演をしたのかという質問に対しては答えられなかった。

ふれあい館の運営は「ふれあいを推進し、互いの歴史、文化などを理解し、もって基本的人権尊重の精神に基づいたともに生きる地域社会の創造に寄与する」と明記する条例に基づいており、市教育委員会の担当者も取材に「多様な視点から語られる人権・平和教育は正誤や優劣があるものではなく、市教委が館の指定管理者に委託した事業が偏っているという認識はない」と説明している。

桜本での演説を終えた宮部氏は「ふれあい館を廃止する」と口走り、抗議に駆け付けた川崎市民は「表向きは『中立化』とかわつとした言い方をしているが、差別をしたいという本音がよく分かった。とても攻撃的で恐ろしい」と話した。ふれあい館の人権尊重教育講座を何度も聴講している横浜市民の高島修さんも「子どもたちが多様なルーツを隠すことなく民族名で

呼び合つふれあい館は人権と平和を守る地域の拠点だ。それをつぶすなんて人権や平和の破壊者に他ならず、市長選に出る資格からしてない」と断じた。

(石橋 学)